



学生や生徒でいられる時期はすぐ通り過ぎて、その先には仕事の世界が待っています。でも、ちょっと辺りを見回せば、景気や雇用に関する暗いニュースばかりで、この社会や自分はどうなっちゃうんだろうって、怖くなってしまいますよね。不安や恐怖だけだと身動きとれなくなるし、逆に自分だけは大丈夫なはずで、カラ元気を出し



仕事で困る前に

本田 由紀 東京大学教授(教育社会学)

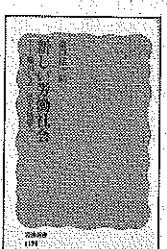


て突っ張つてみても、あれよあれよと言ふ間に現実に裏切られてしまうかもしれません。だったら、備えあれば憂いなしで、仕事で困つたらどうしたらいかを超わかりやすく書いてある本から……。

POSSERという若い人メー

ンのNPOの代表である今野晴貴さんが書いた『マジで使える労働法』(イースト・プレス)は、タイトルそのまんま、職場で、他のみんなはどんな働き方をしているのか、その現実も見つめておきたくなります。『フ

ンエリート青年の社会空間』(中西新太郎・高山智樹編、大月書店)という本では、自転車



さんの『新しい労働社会』(岩波新書)がお薦めです。日本型雇用の本質とは何か、それがどうしてうまくいかなくなっているのか、じゃあどんな仕組みが必要なのか、説明してくれます。「産業民主主義」「団体交渉」を、具体的かつコミカルに教えてくれます。しかも、「ひどい目にあつたときに負けないことが、社会全体をよくしていく働き方や暮らし方」気持ちが明確に描き出されています。彼らは自分たちなりに「なんとかやつてゆく」世界を作り出して、その世界で重要なのは、

メッセンジャー、引っ越し作業員、製造請負労働者、専門学校卒業者、高卒女性といった人々の働き方や暮らし方気持ちが明確に描き出されています。彼らは自分たちなりに「なんとかやつてゆく」世界を作り出して、その世界で重要なのは、

的合意形成」って、言葉は難しこれど、要するに、仲間と支えあっておきたくなります。これが一本通っています。

そして背筋が伸びたところ

で、他のみんなはどんな働き方をしておきたくなります。『フ

ンエリート青年の社会空間』(中西新太郎・高山智樹編、大月書店)という本では、自転車

スピーチの「君は太陽」という歌の中に、「理想の世界じゃないけど大丈夫そうなん」という歌詞があります。ほんとに

てるんだどう、と思ったら、あなたはどういふべきかなどしていかなきゃね。